

授業ビデオの有効活用及び模擬授業の効率的な実施

—英語科教育法における講座改善の一つの試み—

鈴木 幸 平

A Microteaching Exercise
to Develop Performance-based Abilities by Using DVDs

Kohei SUZUKI

2014年11月11日受理

Key Words: Microteaching, DVD, English education

1 はじめに

中学校及び高等学校における英語授業の改革が求められて久しい。その改革の具体的方策の一つとして、大学の「英語科教育法」の改善を図ることが指摘されている。（文部科学省（2011））これを受け、言語習得理論、教授法の歴史、教師論・学習者論などの理論面に主眼が置かれた講義中心の形態から、模擬授業（Microteaching、以下、MT）の実施とその授業分析などを導入した、より実践的な形態へ移行した大学が多くなってきたことは望ましいことである。しかし、そのような講座の改善を行っても、教授理論と実践演習とを有機的に結ぶ橋渡し的過程等が不足しているため、受講生が教育実習等を円滑に行うことが難しい側面があった。

このため、2013年度における本学の英語科教育法（3年次）の講座では、次の改善を試みた。第一点は、講義による理論とMTによる実践演習の橋渡しをするために、いわゆる「英語授業の名人」（以下「名人」と言う。）と称される教師のビデオの授業分析を講義の中に意図的に導入・設定したことである。名人が示す実践的モデルを視聴、分析することにより、名人が教授理論を実際の授業にいかにかに生かしているのかを受講生がイメージ化することができるからである。

二点目は、MTの実施方法の改善である。受講生一人当たりの実施回数を増やし、しかも、効率的に行うことにより、学生自らが授業分析力を高められるよう

な講座設計上の工夫を図ったことである。

本稿においては、教育実習前の3年次における英語科教育法の具体的改善を通して、英語教員養成のあり方について追求したい。

2 先行実践報告

中学校・高校における英語授業のビデオ分析や大学でのMTのビデオ分析を行った先行報告については、各種英語教育関係学会での研究発表や各自治体主催の研修会における事例発表など数多くある。(臼井(2011)、杉森(2011)、松崎(2013)) また、文部科学省配布の授業実践DVDを各学校でどのように活用したかを当該教育委員会がまとめた視聴報告書なども各自治体単位でまとめられている。(向後(2013)) しかし、MTの実施方法に関する報告は松崎(2013)などの事例があるものの、名人による授業ビデオの活用をMTに繋げた英語科教育法の実践については、市販ビデオの販売会社への問合せを含む調査でも、発表事例が見当たらない。

3 実践の方法

3.2.1 本講座受講生及び開講期間

全国の大学では、教職課程志望者に対して、教科教育法の受講許可基準を設定していない大学が8割以上と多い(石田(2011))が、本学では、英語教員志望者の中に英語力など基本的学力や社会性など教師としての資質に課題がある場合があったため、一定の基準「教職課程履修許可制度」(参考資料①)を1年次に設けている。その結果、1年次の英語教員志望者は54人であったが、2013年度の英語科教育法(3年次)の受講生は、26人となった。

また、英語科教育法Ⅰ(前期)及びⅡ(後期)の開講期間は、2013年4月から2014年1月までである。

3.2 本講座の実施形態

3.2.1 使用教材

講義用テキストは「新編 英語科教育法入門(土屋澄男 編著)」を使用し、名人による授業ビデオは「英語教育DVDシリーズ(ジャパンライム社)」の中から選定した。

3.2.2 指導内容

MTの実施時期については、後期の後半に集中して行う大学が多いようだが、一定の期間をおいて、しかも、複数回実施する方が、学生にとっては省察・熟考期間を置くことから授業技術等を段階的に習得することが期待できる。

このため、前期・後期の半期それぞれ 15 回の講座をさらに半分にしたクォーター制を引き、その中に、次の 2 つの授業形態を取ることとした。まず、「理論展開とビデオ活用」の講座（第 1 回～ 6 回）では、英語教授理論を中心とした講義とその課題についての討議を行う「理論展開」、及び名人による授業ビデオの視聴とその授業分析を行う「ビデオ活用」を実施する。この後の「MT と合評会」の講座（第 7 ・ 8 回）では、受講生による 10 分間程度の「MT」及びその授業についての「合評会」を実施した。この一連の流れを第 2 クォーター（第 9 回～ 15 回）についても、同様に行った。

加えて、特定の名人による授業ビデオを精聴して、一字一句を書き取る「テープ起こし」を期末課題として課した。

半期	第 1 クォーター		第 2 クォーター	
回	第 1 回～ 6 回	第 7 ・ 8 回	第 9 回～ 13 回	第 14 ・ 15 回
内容	理論展開とビデオ活用	MT と合評会	理論展開とビデオ活用	MT と合評会

※期末課題：テープ起こし

3. 2. 2. 1 理論展開とビデオ活用（第 1 回～ 6 回）

1 コマ 90 分間の講義を前半の「理論展開」（約 50 分）と後半の「ビデオ活用」（約 40 分）に分割した。

3. 2. 2. 1. 1 理論展開（理論講義と課題討議）

理論展開においては、講義用テキストを再編成した配布資料に基づき、言語習得論、4 技能の教授理論、学習指導要領及びその背景等について講義をする。その講義の後に、受講生 4 ～ 5 人のグループごとにその講義内容に関する研究課題について討議をする。

3. 2. 2. 1. 2 ビデオ活用（ビデオの視聴と授業分析）

また、ビデオ活用においては、「英語教育 DVD シリーズ」の中から講義内容に合った授業ビデオ（30 分程度で収まるもの）を選定し、項目立てとテロップ部分を記した資料（参考資料②）を配布する。これを基に受講生は、そのビデオを視聴した。

その後、①その授業の優れた点は何か、②その優れた点を自分自身の MT 等に導入したいか、また、導入できるか、③自分の授業に導入する場合の留意点は何か、の 3 点に絞ったグループ討議により、卓越した名人の指導技術等に気づかせるように図った。

加えもって、各講義の課題として、上記の研究課題討議とビデオ活用討議を踏

まえて、まとめたレポートを次回の授業に提出することとした。

3.2.2.2 MTと合評会（第7・8回）

3.2.2.2.1 MT

1年間の本講座の中で、学生一人につき10分程度のMTを複数回、効率よく実施できるように若干の工夫を施した。松崎(2013)が試みたような、教室の4ヶ所でMTを同時に実施した場合、教師役、生徒役両者の学生がそのMTへの集中度を欠くとともに、教職担当者にとっても、授業観察が充分できない可能性が高くなる。このため、実現可能な範囲を考慮に入れて、MTの同教室内での同時展開は2ヶ所とした。まず、教室の前後に黒板が設置されている大教室を確保する。次に、受講生26人をA班(7人)、B班(7人)、C班(6人)、D班(6人)の4班に分け、A、C班は、教室の前方に集まり、また、B、D班は、教室の後方に集まり、MT用のクラスを形成する。それぞれのクラスの中で、A、B班は第7回の講座で、C、D班は第8回の講座でMTを行う。

	教室の前方	教室の後方
第7回	A班(7人)	B班(7人)
第8回	C班(6人)	D班(6人)

実施にあたっては、教師役の学生はMTの教案を事前に提出する。また、各班の生徒役の学生は授業終了後に「自分ならこうしたい」という具体的改善を提言する「模擬授業改善提案票」(以下、「提案票」)(参考資料③)に記入する。

3.2.2.2.2 合評会

MT後の合評会にあっては、「提案票」を基に次の点に留意しながら授業分析を行う。

- ①講義で学習した言語習得理論等が授業に生かされていたか。
- ②視聴、分析したビデオの名人の指導技法を授業にどう活用したか。
- ③生徒の立場に立った授業であったか。

さらに、合評会の後、生徒役の学生の意見を教員役の学生にフィードバックさせるために、「提案票」を授業者ごとに切り離して渡す。授業者は、それをもとに、MTの省察をしたレポートを提出する。

上記のような講座設計により、学生一人につき、年間4回のMTが可能となるとともに、生徒役の学生も積極的に授業に参加することができるようになった。

3.2.2.3 期末課題のテーブ起こし

優れた教師の様々なビデオを多く視聴するとともに、特定の教師の授業に焦点を当てて、その教師の指示や説明及び生徒の発言や動きなど全て一字一句漏らさ

ず記録し、その名人の授業の優れた点をまとめることにより、教授技術やその背景にある授業観、教育観などについて、質的に深化、熟考することは受講生にとっては貴重な活動である。

このことから、期末課題として本学図書館及び筆者の研究室にある英語授業録画ビデオの中から、それぞれ40分程度のもを選び、テープ起こしを課すこととした。(参考資料④) そのレポート提出に際しては、次の視点(樋口(2007))に基づいた授業分析も求めた。

- ①生徒の目線に立つことの意味
- ②生徒たちへの優しさと厳しさのある指導
- ③楽しさの影に隠された周到な準備や綿密な計画
- ④言語材料や題材へ斬り込む新たな視点や柔軟な発想

3.3 評価の方法

本講座終了時に、本講座の各活動が次回のMT及び次年度の教育実習等を行う上でどの程度効果があったかについて、受講生にアンケート調査(5段階尺度及び記述)を実施した。(参考資料⑤)

4 実践の結果

事後アンケートの結果、全4項目の平均値は4.11(SD:1.02)であった。

個別的に見ると、まず、Q1の「講義及び討議のMTへの効果」については、平均値は4.04(SD:0.82)で、「自分が授業をする上で知っておくべき背景や知識等が身に付いた。」「グループでの話し合いを通じて、周りの意見を聞くこともでき、自分の考えを深めることができた」などの記述からその効果が認められる。

次に、Q2の「ビデオ視聴及び授業分析のMTへの効果」については、平均値は4.54(SD:0.54)と高い評価を示している。「このビデオを見ていなかったら、おそらく文法指導のみで終わる授業がメインになってしまったと思う。役立つアクティビティが多く、MTでも楽しくできたので是非とも教育実習で使いたい」、「自分だけでは全く思いつかない指導法がとてもたくさんあって、自分のMTを行う上で参考になった」など受講生が授業実践する上で有効であることが確認された。

さらに、Q3の「MT及び提案票の次回のMT等への効果」については、平均値は4.65(SD:0.69)で、最も高く評価されている。主な記述としては「自分で実際に授業を何回も計画し運営することで、教師の大変さが身にしみた。授業を受ける側のフィードバックも大変参考になった」、「生徒役の仲間からコメントをもらうことで、自分では気付かなかったところに気付かされた」など、MTを複数回実施したことが効果的であったこと、生徒役の意見が次の授業改善に有効で

あることが十分窺われる。

上記の結果から、講義とその後の討議、名人による授業ビデオ視聴とその授業分析、MTの実施と相互授業評価の3項目については、受講生がMT等を行う上で効果が認められる肯定的な評価が示された。

一方、Q4の「テープ起こしのMTへの効果」については、平均値は3.19 (SD:1.20)であり、上記の結果と比べて、低い評価をしている。その主な理由としては、「ビデオ内容はとても良かったが、単元によっては、テープ起こしをしないで、視聴のみでも十分なものがあった」などが挙げられ、今後の実施方法に改善・工夫が求められた。

5 今後の課題

文部科学省は、2013年12月13日に、小学校・中学校・高等学校を通じた英語教育改革を計画的に進めるための「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」を公表した。(文部科学省(2013))その主な施策の一つに「当面の指導体制の整備と並行して、高度な英語力と指導法を身につけた教員の養成が必要」であるとして、教員養成課程の改善充実を掲げている。

本稿では、教職課程における英語科教育法の授業形態とその運営方法の改善を図った一つの試みを報告した。その結果については、上述のとおりであるが、以下に、今後の課題を3点、述べることにする。

まず、本講座で使用する名人による授業ビデオを的確に選定することである。本年度使用したビデオは、現在使用可能で、しかも、多様性のあることを前提に「英語教育DVDシリーズ」をその対象としたが、内容的にも形式的にもやや古いビデオも散見される。このため、今後、最新の言語理論に基づいて作成された、比較的入手しやすい授業ビデオを選定の対象とする必要がある。例えば、英語授業研究学会のビデオライブラリーは、今後、貸出が再開されれば、その筆頭に挙げられるであろうし、文部科学省の授業実践事例映像資料及び各教育委員会や学校の授業実践ビデオも、さらに多様な授業形態のものが作成されれば、その候補対象となろう。

また、MTの省察として、受講生のMTを録画したビデオを見て、自己評価することが、多くの大学でも実施されているところではある(臼井(2011))が、より効率的、効果的实施方法を今後とも検討していくことが求められよう。

3点目としては、名人による授業ビデオのテープ起こしについて、一言一句すべてを書き取るのではなく、授業の要点のみをまとめたり、その対象を受講生が不得意とするオーラル・インタラクションなどに絞ったりするなどの工夫も肝要となろう。

上記の課題を踏まえ、英語教師を志望する受講生が「授業展開が明快かつ論理

的である」、「目を輝かせて活動する生徒を育てている」、「英語運用力が高い生徒を育てている」など名人の授業の共通点（肥沼（2001））を意識しながら、赴任した学校での授業づくりを積極的に、しかも、自信を持ってすすめられるよう、大学での教職担当者は「英語科教育法」をさらに改善して行くことが必要である。

参考資料

①教職課程受講許可基準

外国語学部 教職履修許可基準

教職履修認定者は、次の3条件をすべて満たした者とする。

- (1) 1年次の必修英語科目において「優」以上の成績の科目の割合が50%以上である。
- (2) 1年次の1月末までに受験したTOEICの得点が430点以上である。
- (3) 1年次の成績がGPA 偏差値50以上である。

②名人による授業ビデオ視聴資料の例

英語教師 名人の技～分析と活用 (3)

青野保先生の授業実践 ① (32分)

1 授業における「3つのルール」

- ① 3秒ルール
- ② 相づち
- ③ プラス一文

< Q&A >

Q: 「3つのルール」設定の理由は？

2 ウォームアップのパターン

1 オーソドックス編

~~~~~以下省略~~~~~

③模擬授業 改善提案票

| 模擬授業 改善提案票 |    |     |     |     |     |     |    | 平成 | 年 | 月 | 日 | 提案者： |
|------------|----|-----|-----|-----|-----|-----|----|----|---|---|---|------|
| 番          | 概要 | 優良点 | 改善点 | ①構成 | ②指導 | ③英語 | ◎○ |    |   |   |   |      |
| 1          |    |     |     |     |     |     |    |    |   |   |   |      |
| 番          | 概要 | 優良点 | 改善点 | ①構成 | ②指導 | ③英語 | ◎○ |    |   |   |   |      |
| 2          |    |     |     |     |     |     |    |    |   |   |   |      |

~~~~~以下省略~~~~~

④ DVD テープ起こし作成要領

英語教育実践 DVD のテープ起こし及び授業者の優れた指導

- 1 提出期限：12月19日（木）午後1時まで
- 2 提出方法：作成した課題をメールで送信する。
- 3 担当 DVD：別添参照
- 4 原稿書式：A4 縦型。横書き。すべて左寄せ。
パソコンの Word。左右 25 mm、天地 25 mmの余白。1行全角 45 字
(英文は約 90 字) ×約 46 行。
- 5 フォントと文字サイズ：MSP 明朝体 12 ポイント。
(英文は Times New Roman12 ポイント)
- 6 その他：
 - (1)学籍番号と作成者名を左上に記す。
 - (2)DVD の「タイトル名」と「授業者の優れた指導方法」は「」で括る。
 - (3)一画面全体のテロップは囲み線で囲む。
 - (4)テロップの言葉は下線を引く。
 - (5)省略語等については、次のように統一する。

~~~~~以下省略~~~~~

⑤「英語科教育法」についてのアンケート（結果）

「英語科教育法」についてのアンケート

次の質問（Q 1～Q4）について、該当する番号に○をつけてください。  
また、どのような点が効果的であった、効果的でなかったかを述べてください。



5：大変効果的 4：やや効果的 3：普通 2：あまり効果的ではない  
1：まったく効果的でない

Q 1:「講義及びその後の討議」は模擬授業を行う上で効果的であったか。

| 効果度       | 5       | 4        | 3       | 2      | 1    | 平均値  | SD   |
|-----------|---------|----------|---------|--------|------|------|------|
| 人数<br>(%) | 8(30.8) | 12(46.2) | 5(19.2) | 1(3.8) | 0(0) | 4.04 | 0.82 |

<主な意見>「自分が授業をする上で知っておくべき背景や知識等が身に付いた」

「教育の現状を幅広く知ることができた。グループでの話合いを通じて、周りの意見を聞くこともでき、自分の考えを深めることができた」

「自分の意見を確立することができ、それに基づいて模擬授業をする場面があった」

「討議はみんなのいろいろな意見を聞くことができ、視野が広がった」

Q 2:「名人による授業ビデオ視聴及びその優れた点の分析」は模擬授業を行う上で効果的であったか。

| 効果度       | 5        | 4        | 3      | 2    | 1    | 平均値  | SD   |
|-----------|----------|----------|--------|------|------|------|------|
| 人数<br>(%) | 15(57.7) | 10(38.5) | 1(3.8) | 0(0) | 0(0) | 4.54 | 0.58 |

<主な意見>「このビデオを見ていなかったら、おそらく文法指導のみで終わる授業がメインになってしまったと思う。役立つアクティビティが多く、模擬授業でも楽しく出来たので絶対に教育実習で使いたい」

「ビデオを観ていたことで授業のイメージがしやすかった」

「いろいろなアクティビティを知った。それを取り入れることで楽しい授業が行えると思った」

「自分が中学高校の時にやったことのないアクティビティをすることができた」

「自分だけでは全く思いつかない指導法がとてたくさんあって、自分の模擬授業を行う上で参考になった」

「どう指導すれば、生徒が単調な活動をせず積極的に学べるかを知り、模擬授業へ活用できた」

「多くのアクティビティを知っているだけで、授業案を作るのがとても楽になった」

「達人でも英語が一部あやふやなところがある。実際の授業では『英語で授業』は本当に難しいことなのだった」

**Q 3: 「模擬授業及び授業改善提案票」は次回の模擬授業、来年度の教育実習を行う上で効果的であったか。**

| 効果度    | 5        | 4       | 3    | 2      | 1    | 平均値  | SD   |
|--------|----------|---------|------|--------|------|------|------|
| 人数 (%) | 19(73.1) | 6(23.1) | 0(0) | 1(3.8) | 0(0) | 4.65 | 0.69 |

<主な意見> 「自分で実際に授業を何回も計画し運営することで、教師の大変さが身にしみた。授業を受ける側のフィードバックも大変参考になった」

「生徒役の間からコメントをもらうことで、自分では気付かなかったところに気付かされた。また、評価する立場になった時に自分ではどうすべきかを考えさせられた」

「来年度の教育実習に向けて非常に良いステップアップになった。これを活かしていきたい」

「自分の授業で直さなければならない点を厳しく指摘してもらえて良かった」

「どこをどのように治すべきか、こうすればもっと良くなると実感し、早く実践したい」

**Q 4: 期末課題の DVD テープ起こしは模擬授業、教育実習を行う上で効果的であったか。**

| 効果度    | 5       | 4       | 3       | 2       | 1      | 平均値  | SD   |
|--------|---------|---------|---------|---------|--------|------|------|
| 人数 (%) | 4(15.4) | 7(26.9) | 7(26.9) | 6(23.1) | 2(7.7) | 3.19 | 1.20 |

<主な意見> 「テープ起こしは本当に大変だったけど、達成感がすごくあった。」

「単元によっては、テープ起こしをしないで、視聴のみでも十分なものがあったと思う」

「全体の流れを学ぶのには良かったが、どのビデオを通して授業指導案を書くほうがよかった」

※その他、所感があったら記入してください。

「模擬授業は本当に大切な時間です。その中で、たくさん恥ずかしい思いをし失敗をしたことが財産です」

「達人の DVD は本当に為に成りました」

「講義を受ける前までは単に生徒が楽しく学べる授業が素晴らしいと思っていましたが、楽しくても遊びにならず効果的学べる授業、そして、将来、使える英語を教えていきたいと思いました」  
「授業の中で考えさせられる場面が何度もあったことが自分の考えを深めるのにとっても効果的でした」  
「模擬授業を10分だけとはいえ、考えて、実施することは大変でしたが、とても楽しかった。また、改善点も見つけられたため、自分なりにより良いものにしていきたい」

### 参考文献等

- 石田雅近「英語教職課程履修学生の履修要件」(2011)『英語教育学大系第7巻 英語教師の成長—求められる専門性』60-61頁.
- 白井芳子「英語科教員養成の指導」(2011)『英語教育学大系第7巻 英語教師の成長—求められる専門性』73-76頁.
- 樋口忠彦(編)(2007)『すぐれた英語授業実践—よりよい授業づくりのために』大修館,3-7頁.278頁.
- 樋口忠彦/並松 善秋/泉 恵美子(編)(2011)『英語授業改善への提言—「使える英語」力を育成する授業実践』
- 本多敏幸(2011)『若手英語教師のためのよい授業をつくる30章』
- 肥沼則明(2001)『『名人』の指導に学ぶこと—各活動内容や指示の裏にある指導観を探る』『英語教育』2001年3月号,30-34頁.
- 向後秀明(2013)「英語で行う授業のイメージをつかんでほしい」『英語教育ポータルサイト『えいごネット』』文部科学省  
[http://www.eigo-net.jp/topics/ask\\_expert/interview2/](http://www.eigo-net.jp/topics/ask_expert/interview2/)
- 望月昭彦(編)(2010)『新学習指導要領にもとづく英語科教育法』
- 三木陽介(2014)「英語教師をとりまく環境 制度・時間・予算」『英語教育』2014年1月号,20-22頁.
- 佐野正之(2000)『アクション・リサーチのすすめ』大修館
- 杉森幹彦(2011)「外国語授業分析法の概観と英語授業評価基準の提案」『立命館大学 政策科学会18巻3号 Gordon L.RATZLAFF 教授退任記念論文集』36頁-50頁.
- 松崎邦守(2013)「メタ教授に関する気づきを促すマイクロティーチングの設計と効果の検討」『英語授業研究学会第25回全国大会発表資料集』英語授業研究学会,73-74頁.
- 土屋澄男(編)(2011)『新編 英語科教育法入門』研究社

- 安木真一（2013）「高校英語教育における名人教師の教授方略・授業観・学習観の研究」『英語授業研究会関西支部第22回研究大会』英語授業研究会
- 文部科学省（2011）『国際共通語としての英語力向上のための5つの提言と具体的施策』8頁．
- 文部科学省（2013）『グローバル化に対応した英語教育改革実施計画』
- 文部科学省（2012・2013）『新学習指導要領に対応した外国語活動及び外国語科の授業実践事例映像資料』（授業実践DVD）小学校版
- 文部科学省（2012・2013）『新学習指導要領に対応した外国語活動及び外国語科の授業実践事例映像資料』（授業実践DVD）中学校版
- 文部科学省（2012・2013）『新学習指導要領に対応した外国語活動及び外国語科の授業実践事例映像資料』（授業実践DVD）高等学校版
- ジャパンライム社（英語教育DVDシリーズ）
- 『英語授業の実践指導事例集』Part1全10巻・Part2全10巻
- 『新・英語授業のすべて』全20巻
- 『新・授業のためのアイデアボックス』全2巻
- 『英語教師の玉手箱』Part1全5巻、Part4全6巻
- 『音読指導のバリエーション「読み」からSpeakingへ』全2巻